

私と富士山

ハイキング同好会の 富士登山に参加して

宮越 敏光

(昭和38年建築科卒)



私が初めて富士山に足を踏み入れたのは、秋工を卒業して最初の建設会社に入社して3、4日しての事だった。当時、富士スバルラインと言う道路が建設中だったのだが、その会社が施工会社として工事中でした。新入社員の現場見学としてバスで五合目まで登ったのである。山と言えば寒風山と乳頭山しか登った事のない私にとって富士山はあまりにも綺麗で雄大でした。日本一の山はあの位の高さなのだ、いつかあの頂上まで登れたらと漠然と思った記憶がある。

富士山への最初の挑戦は、結婚して間もなくの夏である。日本人なら富士山に登らなきゃ、と妻を説き伏せて、新宿発の夜行バスに乗り込んだ。必要最低限の装備と食料を持って出発したのだった。その日は8月の第一土曜日だったので、バスは満員状態でした。五合目に着いたのが深夜の12時頃でしたが、売店等の明かりで煌煌としていた。金剛杖の様な物を2本買ってステッキ代わりにしていざ出発。登り始めて周囲を見渡すと、暗闇の中で懐中電灯を頼りに登っている人の群れが頂上方向に向かってのりかかっているのがわかる。登りが少し急な場所に来ると前の人を追い越す事も出来ず、ゆっくりしたペースだった。夜が明け始めて来たのが七合目の手前位だったが、そこでご来光を眺めてからが大変だった。段々足が疲れてきて、気温もどんどん上昇して来るし、行列状態なので前に進むのもマイペースとは行かず、悪条件が重なって来た。妻も疲れたのか口数が少なくなって来ている。肝心の私も寝不足も加わってボーッとしている。無理する事も無いかと、2人で相談して断念する事に決定。八合目を目前の9時頃だったと思う。1回目の挑戦はあえなく敗退だった。

2回目の挑戦は、長男が小学6年で次男が3年の時だった。長男

が夏休みの工作に富士山の模型を作る事になり、現地を見ようということになった。前回の失敗を参考にして、新聞社が主催する一泊二日ガイド付のツアーを申し込んだ。ところが4、5日前頃から天気予報が台風の発生を知らせていた。ツアー会社に問い合わせたら、台風の進路がはっきりしないので予定通りとの返事だった。不安もあったが、今と違って天気予報もしばしば違う事もあったので、案内通りに集合してバスで五合目に、徒歩で八合目と前日の行動を終えた。明日の事は運次第と気楽に考えて、親子4人はかたまって睡眠に付いた。一夜明けて見ると風と雨で外には出られない状態。ガイドさんに聞いたら、台風が今この辺を通過中との事だった。その後ツアーの全員が集めた時に、こんな状態なので頂上を目指すのは無理、明るくなったら下山するとの説明があった。宿の売店でビニールの合羽を購入、ガイドを先頭に下山する事となった。こうして2回目の挑戦もダウン。でも今は親子で酒を飲むとこの話題が出る事もあり、子育て中の良い思い出である。

そして3度目の挑戦が昨年になるのだが、それまでにいろいろ伏線があった。東京秋工会に入会した事。ひょんな事からハイキング同好会にも入会した事。山はまるっきり素人だった私を根気よく指導してくれた堀氏と田口氏。段々私も山に魅力を感じるようになっていった。勿論、60歳過ぎの手習いですから高い山を征服する等の野望はない。只々、山を歩ければと思うようになっていった。そして昨年の始め頃から富士登山の話が同好会の中で出て来た。私は内心ニヤリとした、多少山にも慣れて来たし、良き案内役もいるのだし、今度こそ頂上に立てるのではと。自分の過去の経歴から富士山と私は相性が良くないのではとの懸念もあったが、又駄目でもそれはそれと割り切って参加を申し込んだ。

そして前日の平成23年7月31日にメンバーが集合、全員顔見知りなので冗談を言い合いながらバスで富士山五合目に。ところが向かう途中から雨、過去の経歴が頭をかすめ良からぬ事が起こるのでは。五合目で雨対策の身支度をしていると、富士山の関係者から落雷に気を付けてと注意を受ける。またまたビビる私。それでも気を取り直して登山開始。雨は登っていく程に降ったり止んだりとなるのだが、雨雲の上に出た事だそう。さすが富士山、経験の浅い私だが今までで一番きつかった。それでも無事宿舎に到着し、晩飯はビールとカレーライスで簡単に済ます。明日早いとする事もないので、雑魚寝の布団に横になる。慣れない場所と今日の疲れで親指がつったりしてとうとうと状態。宿の雰囲気ソワソワした気配で起床する事にしたのが午前2時頃と思われる。身支度をして、炭鉱夫の様にヘッドライトを付けて完了。雨の心配は無用、待望の頂上へと足が向かう。ご来光を眺め、剣ヶ峰で記念写真、富士の火口を見下ろしての朝食。一連のこの行動で、疲れていたが満足感で一杯だった。友人や親類に自慢する為に用意したハガキを、頂上の郵便ポストに投入。ホラでなく証拠も残したのだと自己満足。下山も仲間に助けられながらの行動だったが何とか五合目に到着し登山の終わり。

今こうして振り返っても良い仲間がいたから出来た事で、特に同行した人達に感謝している。

Estimation of Architecture

有限会社 不二コストプラン

代表取締役 宮越 直哉

取締役 宮越 敏光 (昭和38年建築科卒)

〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町45番地
ライオンズマンション秋葉原1205号
TEL. 03-3255-5806 FAX. 03-3255-5807
E-mail miya-bin@mtb.biglobe.ne.jp